

# Governor's Monthly Letter

# G M

ガバナー月信  
会長・幹事殿

Rotary  
District 2710

2025-26 ROTARY  
INTERNATIONAL  
District 2710

Vol. **11**  
2026.5

## 平和

会長・幹事の皆さま、そして会員の皆さま、こんにちは。  
ロータリーソング「奉仕の理想」の歌詞の中にあるように、  
ロータリーの最終目標は世界の平和です。  
AI (Artificial Intelligence) で検索すると、平和とは、  
単に戦争や武力紛争がない状態(消極的平和)だけでなく、  
貧困・差別・飢餓などの構造的暴力がなく、  
誰もが安心して尊厳を持って生活できる状態(積極的平和)と  
定義されています。

「平和は力によって保たれるものではありません。

理解し合うことによってのみ達成できるのです。」

これは、A.アインシュタインの有名な言葉です。

世界中の人たちが、お互いの文化や習慣の違いを理解し認め、  
「寛容の精神」で共に歩む、そんなロータリー精神を持つ人が  
もっと増えれば、世界の平和に少しでも近づくかもしれません。

*Enjoy Rotary*

皆さんロータリーを楽しみましょう。



## Contents

青少年奉仕月間よせて …………… 02	ロータリー平和フェロー広島研修交流会の報告 … 10
青少年交換プログラム 中四国3地区合同オリエンテーション報告 …… 04	第18回「ひまわりの会」を終えて …………… 11
駐日ウクライナ大使講演会が繋いだ 地域と世界との輪 …………… 06	IM報告 G4 …………… 12
柳井RC創立65周年記念式典報告 ～受け継がれる奉仕の心、そして未来100年先へ～ … 07	IM報告 G1 …………… 13
PELS & 地区チームラーニングセミナーを終えて … 08	IM報告 G12 …………… 14
	ガバナー予定者決定のお知らせ …………… 15
	新会員紹介/会員の増減・出席率 …………… 16

《今月の特別月間》  
青少年奉仕月間





## 青少年奉仕月間によせて

国際ロータリー第2710地区 2025-26年度 ガバナー  
土肥 慎二郎

5月は「青少年奉仕月間」です。

奉仕の第5部門である青少年奉仕は次のように定義されています。

「指導力養成活動、社会奉仕プロジェクトおよび国際奉仕プロジェクトへの参加、積極的世界平和と異文化の理解を深め育む交換プログラムを通じて、青少年ならびに若者によって、好ましい変化がもたらされることを認識するものである。」(標準ロータリークラブ定款第6条)

何だかよく解りませんね。

「青少年ならびに若者によって、もたらされる好ましい変化」って何でしょう？

ロータリーの公式な青少年奉仕プログラムは、以下の通りです。

- インターアクト (高校生)
- ロータリー青少年交換 (高校生) …P4.5参照下さい
- 新世代交換 (30歳以下の若者)
- ロータリー青少年指導者養成プログラム (RYLA)
- ローターアクト (2019年にRIの一員となり独立)

そして、クラブ独自の活動例としては、スポーツ大会や音楽、弁論大会の開催、出前事業(職業、環境その他)や模擬面接、クラブ奨学金や海外との青少年交換などが挙げられます。

また、ロータリー財団の教育的プログラムとしては

- ロータリー財団奨学生
- ロータリー平和フェロー…P10参照下さい

東日本大震災復興支援事業としては

### ●ロータリー希望の風奨学金

(保護者を震災で失った方へ、大学・専門学校の学費を支援;月50000円、最大4年)

などの様々なプログラムがあります。

私は以前、奉仕とは“人の役に立つこと”と言いました。

そして“奉仕の理想”とは「自分がしてもらいたいことを他人にもしましょう」です。

これをクラブ内で適用し、例会のプログラムや楽しい親睦行事を企画する、それが“クラブ奉仕”

この考え方を自分の職場に持ち込んだのが“職業奉仕”

地域社会に広げたのが“社会奉仕”

そして同じような考えを持った世界中の仲間と共に平和を目指すのが“国際奉仕”

私はこのように、ロータリーをシンプルに考えることにしています。

じゃあ、青少年奉仕は「ロータリーの奉仕の精神を青少年の心に植え付けること」でしょうか？

それとも『ロータリアンは青少年の模範』この標語のように、我々ロータリアンの日々の立ち居振る舞い、その後姿を見せることでしょうか？

それはともかく、私が皆様をお願いしたいことは、ぜひ青少年のプログラムに参加していただきたい、ということです。

参加することで、逆に多くのことを青少年から学ぶこともあるかも知れません。

最後に、2680地区、深川純一パストガバナー(故人)の「RYLAの種」をご紹介します。

## RYLAの種

RYLAの種は、

RYLAから地域社会へ戻っていった若者たちの心に、

すぐに芽生えるかもしれない、

あるいは1年後になるかもしれない

あるいは10年後かもしれない

また、あるいは、永遠に芽生えないかもしれない、

しかし、いつかは芽生えることを信じて、

ひたすら種をまく、種をまき続ける

そして未来に託す。

これがロータリー思想であり、

RYLAの思想でもある。





## 国際ロータリー第2670地区・第2690地区・第2710地区 2025-26年度青少年交換プログラム 中四国3地区合同オリエンテーション

国際ロータリー第2710地区 2025-26年度 青少年交換委員長  
**原 直樹**  
(東広島2IRC)

2026年2月7日(土)～8日(日)に、岡山県「倉敷シーサイドホテル」にて青少年交換プログラム『中四国3地区合同オリエンテーション』を開催いたしました。

この合同オリエンテーションは、第2670地区(愛媛・香川・徳島・高知)・第2690地区(鳥取・島根・岡山)・第2710地区(広島・山口)の3地区から、2025-26年度受入学生6名・2026-27年度派遣学生6名・ROTEX(学友)6名・各地区の委員・ロータリアン/事務局24名の参加となりました。

第2710地区からは、受入学生のJack Tyler Hamptonさん(広島西RC)、Rim Anaïs Marie BENTALHAさん(山口RC)、派遣予定学生の小尻千菜さん(呉東RC)、繁田昂樹さん(山口RC)の4名です。

1日目は、学校法人呉武田学園教員のAshley Souther先生をお招きし、受入学生と派遣予定学生と合同で行われ、英語と流暢な広島弁での和やかでかつ熱い講義となりました。



Youth Exchange  
**Rotary**  
District2710



UNITE  
FOR GOOD



### 【Your Hero's Journey】～英雄の旅～

「ハロー！留学は単なる異文化体験じゃない、自分を変える『英雄の旅(Hero's Journey)』なんじゃ！異文化で打ちのめされる経験は、新しい自分へ変わるための不可欠なプロセス。未知の世界で孤立しないよう『褒める・観察・共通体験』の3ステップを意識しよう。また、日本人が使いがちな『It's difficult』は曖昧すぎる。料理を否定せず『It's spicy for me』と主語を自分にするなど、具体的な技法が大切だよ。他者の身体的特徴への言及は厳禁という国際マナーも忘れずに。最後は感謝の力。一回り成長した『変容』の姿で帰還することを楽しみにしているよ！



2日目は、派遣予定学生は特定非営利活動法人 テラ・ルネッサンスの創設者/理事である鬼丸昌也先生の講義、受入学生・ROTEXは岡山での文化に触れるエクスカッションとなりました。

### 【青少年交換プログラムでの目的意識・日本を知ろう！・プレゼンのコツ】



「先生、異文化の中でのコミュニケーションで大切なことは何でしょうか？」それは『対話』です。相手の背景にある価値観を知ろうとする力が、物事を良くする力になります。また、留学の『目標』に自分なりの意味を足して『目的』へと昇華させてください。明確な目的意識は、困難を乗り越える原動力になります。平和とは、単に戦争がない状態ではなく、一人ひとりが自分らしく生きられる『積極的平和』の状態を指します。私たちの日常の消費が遠くの紛争に関わっている現実を知り、想像力を持つことが重要です。『微力だけど無力ではない』。皆さん一人ひとりが現地で対話を重ねることが、平和を創る確かな一歩になります。」

※ドキュメンタリー映画『リターニーズ』は、テラ・ルネッサンスのウガンダでの2年にもおよぶ活動現場での支援施設「スマイルハウス」を映像化されたものです。



### エクスカーション ～岡山の文化・歴史・庭園を巡る特別プログラム～

古民家風の情緒ある館内を見学した後、ワークショップにて「マイ招き猫」の絵付け体験。

学生たちはそれぞれの感性で筆を走らせ、世界にひとつだけの作品を完成させました。寒冷な気候の中での実施となりましたが、受入学生と派遣学生、そしてROTEXが行動を共にすることで、文化交流のみならず親睦を深める貴重な機会となりました。絵付け体験や歴史的建造物の見学を通じて、岡山の多面的な魅力を体感できる有意義な一日となりました。



Let's  
Enjoy Rotary



## 駐日ウクライナ大使講演会が繋いだ地域と世界との輪

国際ロータリー第2710地区 2025-26年度 徳山セントラルRC 奉仕プロジェクト委員長

**金織 平浩**

(徳山セントラルRC)

徳山セントラルロータリークラブは、2025年12月、創立30周年を迎えました。創立時32名いた会員は一時期20名まで減少し、存続の危機を感じる事態もありました。

そんな中、2024年に岩本英樹前会長のご差配で、下松市在住のウクライナ出身、古谷ニーナさんを例会にお招きし、卓話を拝聴する機会を得ました。

故郷の現状を語る彼女の言葉は、私たちの胸を強く打ち、「何かできないか」という想いは、ウクライナのチェルカースィ・ロータリークラブとの姉妹縁組へと結実しました。

今年度30周年事業として、駐日ウクライナ特命全権大使を招聘し、次代を担う青少年や地域の方々へ直接声を届けていただきたい、という想いが松田明会長・岩本前会長・奉仕プロジェクト委員会の中で強まりました。

まずは奉仕プロジェクト委員会の私を中心となり、大使館へ熱意を込めた連絡を開始し、書記官とのメールは20回を超え、9月19日には直接大使館を訪問しました。

必死の訴えに対し、当時はルトビノフ・ユーリ大使の着任直前でしたが、書記官から「就任後、すぐに伝える」との回答をいただき、9月29日、ついに大使からの快諾が届いたのです。

この頃、ようやく全会員の想いが一つになり、2月11日、下松市のスターピアくだまつ大ホールでの開催が正式に決まりました。

国際情勢の変動でやり取りが途絶える時期もありましたが、粘り強く連絡を重ねて12月に詳細が固まり、怒涛の準備期間へ突入。1月には大使館を再訪し、駐日ウクライナ特命全権大使ルトビノフ・ユーリ氏とも直接打ち合わせを行いました。

1,000人収容のホールをいかに埋めるか。開催まで1ヵ月を切っても課題は山積みでしたが、高田愼二実行委員長と奉仕プロジェクト国際奉仕委員長の宇多川剛彦さんを中心に毎週集まり、1回4時間に及ぶ会議を計6回重ねました。

また、山田正敏ガバナー補佐を中心に、近隣の徳山、徳山東、周南西、光の4クラブの皆様には集客を呼びかけてくださるなど、支援の輪が広がり、ロータリーの絆を改めて痛感しました。

さらに、大使の「青少年と交流したい」との意向を受け、山口県立・華陵高等学校・下松工業高等学校や下松アンタルアカデミー専門学校の生徒たちが、花束贈呈や募金活動に名乗りを上げてくださいました。下松吹奏楽協会は両国歌の演奏を引き受けてくださり、県内トップレベルの下松市吹奏楽団が、冒頭で素晴らしい演奏を披露してくださいました。

当日、会場には600名超の来場者が詰めかけ、土肥愼二郎ガバナーからも温かいお祝いの御言葉をいただきました。

ルトビノフ大使は流暢な日本語で「私たちは戦争を望んだわけではない。ただ、力よりもルールが重視される世界で生きることを望んでいる」と、静かに力強く訴えられました。

空爆下で緊張しながらも学びを続けている子供たちの現状や、連れ去られた子供たちの悲劇、そして日本の医療・発電機支援が多くの命を救っていることへの感謝を述べられました。

「囲む会」では、下松市が誇る「打ち出し板金」技術によるアルミ製バイオリンとチェロの演奏、書アーティスト・雅宵さんのパフォーマンスも披露され、大使は感激された様子でした。これらすべてが、会員の「地域との繋がり」で実現したものです。

翌日、大使には古い伝統文化が残る下松市の花岡地域を訪れていただき、花岡八幡宮境内にある多宝塔や破邪の御太刀などの文化財の見学や、周南市大津島の人間魚雷回天の記念館なども見学。感銘を受けておられました。

松田明会長は「国家や平和、我々にできる支援を考える良い機会となった。ウクライナの子どもたちの未来に、一日も早く平和が訪れることを願う」と話しています。

今回の経験は、私たちの今後の奉仕活動におけるゆるぎない礎となりました。ご協力いただいた皆様に、心から感謝申し上げます。





## 柳井ロータリークラブ創立65周年記念式典報告 ～受け継がれる奉仕の心、そして未来100年先へ～

国際ロータリー第2710地区 2025-26年度 柳井RC 会長  
**嶋尾 忠宏**  
(柳井RC)

去る令和8年2月21日、柳井ロータリークラブは創立65周年を迎え、記念式典を盛大に挙行了いたしました。当日は、国際ロータリー第2710地区土肥ガバナーをはじめ、国内外から多数のご来賓、ロータリアンの皆様、会員家族の方々に出席を賜り、節目を祝うことができましたことに厚く御礼申し上げます。

今年度、第2710地区土肥ガバナーが掲げられた「ロータリーを楽しもう」というメッセージは、本式典の根底に流れるテーマでもありました。65周年という長い歴史の中で、私たちが守り続けてきたのは、奉仕を義務ではなく「喜び」としての精神です。

式典では、歴代の会長や諸先輩方が築き上げた「超私の奉仕」の軌跡を動画で振り返り、改めてロータリーの活動がもたらす心の豊かさを会員一同で再確認いたしました。

本式典をより国際色豊かで感動的なものにしたのは、友好クラブである台湾中壘東ロータリークラブの皆様です。19名という大団員で駆けつけてくださった皆様との再会は、まさに本クラブが長年大切にしてきた「国際親善」の結実です。35年にわたり継続している国際親善大使の受入・派遣事業を通じ、「小さな町から世界を目指す」若者を支援してきた歩みは、国境を越えた強い信頼関係へと昇華されています。

本クラブが特に力を注いでいるのが青少年奉仕活動です。「柳井ロータリークラブ杯青少年レスリング選手権大会」やインターアクトクラブへの支援を通じ、次世代のリーダー育成に心血を注いで参りました。

そして今、私たちは新たな奉仕の形として、地元・柳井商工高等学校バドミントン部への支援に取り組んでいます。インターハイ10連覇という偉業を成し遂げた同部



を率いる竹光監督の「人間性を高める」という指導哲学は、ロータリーが掲げる「四つのテスト」の精神と深く共鳴するものです。成功事例としてのグローバルな視点を持つ青少年育成は、私たちの活動に新たな息吹を吹き込んでくれました。

会長挨拶において、私は「持続可能な奉仕の未来を、この柳井から切り開く」ことを強く誓いました。65年前、先輩方が灯された奉仕の火は、今、次世代へと力強く引き継がれようとしています。伝統を重んじつつも、時代に即した新たな奉仕活動に取り組み、100周年、そしてその先へと続くクラブであり続けること、それが、今を生きる私たちロータリアンの責務です。

式典の最後には、ガバナーメッセージ「ロータリーを楽しもう」を大きく掲げ、続いて私の「未来への誓い」を宣言し、65周年という大きな節目から新たなスタートを切りました。柳井ロータリークラブは、これからも地域社会に根ざし、世界との絆を大切にしながら、楽しみを持って奉仕の道を歩んで参ります。

今後とも変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます、式典の報告とさせていただきます。





## PELS&地区チームラーニングセミナーを終えて

国際ロータリー第2710地区 2025-26年度 ガバナーエレクト

脇 和也

(宇部RC)

国際協議会を経験したガバナーエレクトにはガバナーとなるまでに三つの「学びの場」に立つことが求められます。ロータリーの三大セミナーと呼ばれる「PELS(プレジデントエレクト・ラーニングセミナー)」と地区チームラーニングセミナー、それにクラブリーダーシップ・ラーニングセミナーです。

全国には三つのセミナーの日にちを変えてそれぞれ開催する地区もありますが、当地区はPELSと地区チームラーニングセミナーを一緒に開き、しばらく時間を置いてクラブリーダーシップ・ラーニングセミナーに臨むようにしています。

このうちPELSと地区チームラーニングセミナーはガバナーエレクトや地区委員長らに国際協議会で得た国際ロータリー会長エレクトのメッセージなどの情報を伝えるとともにガバナー信条や地区運営方針を明らかにする場となります。

またPELSは文字通り会長エレクトが出席(義務出席)する研修でガバナー補佐との連携を確認します。また地区チームラーニングセミナーは地区委員会の委員長らが次年度の就任へ向けて備える場となります。ともに地区やクラブを1年間、どのように牽引していくのか、そのための道標となる大切な機会です。

今年3月15日の日曜日が「その日」でした。会場と

なったホテルグランヴィア広島にはガバナー補佐、クラブ会長エレクト、そして地区委員長ら総勢約200人が集いました。またセミナーの開催には来賓をはじめ多くの方々の支援をいただきました。ゲスト講師として第3地域ロータリー会員増強コーディネーターの中川基成(あすかRC)を招き、地区パストガバナーの協力のもと石川良興(あすかRC)次年度地区ファシリテーターによってセミナーが進行しました。以下時系列的に報告します。

午前10時にスタート。最初に私がオンラインカ・ハキーム・パバラ国際ロータリー会長エレクト(ナイジェリア)のメッセージ「Create Lasting Impact (持続可能なインパクトを生み出そう)」について話をしました。その中でインパクトの意味は「(ロータリー活動がもたらす)よい変化」のことであり、自分とクラブの変化、つまり自分やクラブのこれまでのベストを超えた行動と実践が持続可能なよい変化を生み出すとのパバラ会長エレクトの解説を紹介しました。そしてメッセージを踏まえて私のガバナー信条や地区運営方針を発表しました。

ガバナー信条は「和と絆」With One Heart(心一つに)としました。親睦で培ったクラブの「和」と奉仕を通じて育んだ地域社会との「絆」を大切に、クラブ会員がベクトルを合わせて心一つにまとめて奉仕活動を展開





すれば、地域社会でのロータリーの存在感が増して公共イメージが高まり地域での求心力と関心を確かなものとしそれで会員が増えればさらに存在感が増し公共イメージが高まり…と、そんな好循環を描くことの大切さを信条に込めています。あくまで理想の姿ですが、それに少しでもそれに近づくようクラブとロータリアンが自分のベストを超えていく大切さを強調しました。

また地区の活動方針を好循環を生み出すための「行動の実践の重視」とし、クラブ内の結束と地域社会とのさらなる連携をアピールしました。引き続き中川パストガバナーの講演があり、ビジョン声明と行動計画を中心にしたクラブ運営の重要性や会員増強の必要性について熱っぽく語っていただきました。その中でロータリアンだった松下幸之助さんについて触れられ、クラブの例会出席のため会社を離れる時は決まって「勉強に行く」と言われていたことを紹介されるなど例会の意義についてもわかりやすく解説していただきました。

昼食をはさんで午後からは部門別研修です。最初に公共イメージについて藤中秀幸パストガバナー、続いて米山記念奨学事業について土肥慎二郎ガバナー、ロータリー財団について晝田眞三パストガバナー、そして最後に会員増強について吉原久司パストガバナーといずれもカウンセラーを務めていただいている皆さん

からの講話がありました。一人25分と限られた時間でしたが、中身の濃い情報を提供していただきました。

続いて部門別ごとに会場を分けて次年度の活動について意見交換などを行いました。どの部門も熱心な討議が交わされ、4月26日開催のクラブリーダーシップ・ラーニングセミナーへ向けての準備などが協議されました。

セミナーの最後は再び参加者全員が集う合同会議で、地区組織や公式訪問の日程などの説明があり、すべての予定を終えました。参加者の皆さんにはハードなスケジュールでしたが、セミナーの間にたびたびステージに上がった私の目にはガバナー補佐や会長エレクトをはじめ皆さんの真剣な表情が映っていました。またその表情からは組織を代表することへの責任感を読み取ることもできました。

セミナーを終えた後は、懇親会に移り全員で盃を上げました。和やかな雰囲気の中多くの会長エレクトの皆さんと直接話す機会を得て私にとってセミナー同様に充実した時間を過ごすことができました。そして次年度へ向けて頼もしい仲間の実感することができました。

「感謝！」長かったセミナーの1日を通じての私の率直な感想です。





## ロータリー平和フェロー広島研修交流会の報告

国際ロータリー第2710地区 2025-26年度 ガバナー  
土肥 慎二郎

皆さん、ロータリー財団のプログラム「ロータリー平和フェローシップ」をご存じですか？

ロータリーは「平和に関する大学」として、平和センターを世界7か所に作りました。

2002年から、これまで1800人以上のフェローを輩出しています。

これらのフェローは現在、140ヵ国以上で活躍し、政府、NGO、教育・研究機関、平和維持および法執行機関のほか、国連や世界銀行といった国際機関でリーダーシップを発揮しています。

今回、その一つである東京の国際基督教大学(ICU)から19名のフェローの皆さんが広島を訪れ、平和に関する研修を行いました。



新垣センター長



白石地区R財団委員長と筆者



この研修は、広島と東日本大震災の被災地、仙台とで、隔年開催されています。

「ロータリー平和フェローシップ」は、皆様方のロータリー財団へのご寄付で成り立っています。



## 第18回「ひまわりの会」を終えて

国際ロータリー第2710地区 2025-26年度 ひまわりの会代表

小根森 直子

(三次中央RC)

2026年2月22日、第18回「女性ロータリアンの集い」、改め「ひまわりの会」が、土肥慎二郎ガバナー、西村栄時パストガバナー、脇和也ガバナーエレクト、柳河元木地区会員増強委員長を来賓として迎え、ホテルグランヴィア広島にて開催されました。今回からは、女性ロータリアンだけでなく、男性ロータリアンの皆さま、さらにはロータリアン以外の方にもご参加いただけることとなり、会場にはこれまで以上に幅広い世代と背景を持つ方々が集まりました。にぎやかで温かい雰囲気の中、自然と笑顔があふれる会となりました。

この会は、2002年春、桜が満開の岩国で第1回目を開催したのが始まりです。あれから20年以上の時間が流れ、コロナ禍による休会期間を挟みながらも、思いをつないで今日まで続いてきました。当時、女性会員は全会員4,072名のうちわずか50名、割合にして1.23%でした。それが2026年1月の統計では、3,144名中244名、7.76%にまで増えています。数字だけを見ても、女性会員が少しずつ、しかし確実に増えてきたことが分かります。長い年月の中で、多くの方が努力を重ね、声を掛け合い、励まし合ってきた結果だと感じます。

2023年、西村パストガバナーのご尽力のもと、長い休会を経て会が再開した際には、「女性会員比率が10%に達するまで続けよう」と皆で決議しました。あの時の前向きな空気や、会場に満ちていた期待感は、今でも鮮明に思い出されます。

この会の一番の目的は、女性会員を増やすことです。そのために、どうすれば女性の皆さんにロータリーの魅力を伝えられるのか、どうすれば入会された方が安心

して活動を続け、ロータリアンとして成長していけるのか。私たちはずっと考え続けてきました。今回、男性会員の皆さまにもご参加をお願いしたのは、こうした課題を一緒に考え、より良い形を探していきたいという思いからです。多様な視点加わることで、これまで気づかなかったヒントが見えてくるかもしれません。

会の最後には毎回アンケートをお願いしていますが、ほとんどの方が「楽しかった」「次回も参加したい」と書いてくださいます。特に、毎回プログラムに組み込んでいる講演は大変人気で、参加者の皆さまの楽しみの一つになっています。

これまでは現役で活躍されている女性ロータリアンの方をお願いすることが多かったのですが、今回は初めて外部の女性講師にご登壇いただきました。テレビドラマ『ファーストペンギン』の主人公のモデルとして知られる坪内千佳様です。漁業の世界に全く知識のない状態で飛び込み、数々の挑戦を成功させてこられたその行動力と勇気は、まさに「ファーストペンギン」の名にふさわしいものでした。お話の一つひとつに力があり、会場は深い感動に包まれました。講演が終わった瞬間に湧き起こった大きな拍手が、その余韻を物語っていました。

会の終了後も、参加者同士が名残惜しそうに語り合う姿があちこちで見られ、今回の会が多くの方にとって実りある時間になったことを感じました。そして最後には、「来年度も必ず開催しよう」と皆で再び誓い合い、温かい気持ちで会を締めくくることができました。





## IM報告 [G4]

# 「AI時代の経営者に求められるITリテラシー」

国際ロータリー第2710地区 2025-26年度 G4ガバナー補佐

山田 正敏

(徳山東RC)

2026年3月7日、グループ4のIMが周南市の遠石会館において開催されました。

ご来賓として、土肥慎二郎ガバナー、石川良興パストガバナー、松田明次年度ガバナー補佐をお迎えし、グループ4内の5クラブの会長幹事をはじめとするロータリアンに、米山奨学生として周南公立大で学んでいる台湾の陳聖智さん、マレーシアの黄心怡さんを加え、総勢134名のご参加をいただきました。

今年度のIMのテーマは「AI時代の経営者に求められるITリテラシー」とし、講師に周南公立大学副学長である情報科学部の橋本喜代太教授をお迎えして、「AIは経営・業務をどう変えていくか、地域・社会の発展にどうつながるのか」を演題に、基調講演を行っていただきました。

私は、1995-96年度にロータリー財団プログラムのGSEのチームリーダーとして、1ヶ月間、アメリカNY州の7150地区に派遣されました。当時のRIの重点活動項目にリテラシー向上が取り上げられ、派遣先の地区でも熱心に討議されていました。私はリテラシーという単語に初めて接したのですが、日本語では読み書き能力(識字率)と訳されていました。当時の世界の識字率は70%程度で、義務教育のおかげで日本国民の識字率は、ほぼ100%でしたから他人事のように思っていました。

あれから30年、世界の識字率は85%程度に上昇したようですが、2000年代からIT革命の時代となり、従来の読み書きに加えて、新しいリテラシーであるコンピューターとインターネットを上手に操る能力が求められるようになりました。

他人事のように思っていたリテラシーが一気に自分事となり、さらには、気付かぬうちにAIモードが自分のスマホに搭載されるようになり、生成AIの登場は、便利さを享受できるとともに、そこに潜む危険を認識

しておかないと予期せぬ事態を招きかねないと思われ

ます。橋本教授から難しい話をわかりやすく、特にビジネスユースにおいては、情報セキュリティーに細心の注意を払わなければならないことを解説いただきました。

IM後半の本会議では、徳山工業高等専門学校の阿部恵校長を講師にお迎えしました。

阿部校長は、米国オハイオ・ドミニカン大学にロータリー財団奨学生(1991-1992)として留学経験をお持ちで、財団奨学生として学ばれた留学時代のことや、受け入れ側のカウンセラーをお勤めいただいたロータリアンとの交流、その後の人生にいかにより有益であったかなどを赤裸々に語っていただきました。

ロータリー財団奨学生は、海外の大学の博士課程で学ぼうとする学生ですから、優秀な人材が多いのですが、優秀であるが故に、留学後に日本へ帰国されるケースが少なく、なかなか元奨学生にお会いする機会がないのですが、貴重な体験談に接し、参加したロータリアンも、ロータリー財団に寄付する意義を再確認する機会になったと思います。

さらに、事前に各クラブから寄せられたロータリー財団活動に対する疑問や要望について、土肥ガバナーからお答えいただきました。

その後の懇親会では、ホストクラブの徳山東RCで入念に準備したロータリークイズ大会で、大いに盛り上げていただきました。

土肥ガバナーには、徳山東RCの居酒屋での二次会にも合流していただき、メンバー一同、和気藹々とした時間を過ごさせていただきました。

今回のIM開催にご助力いただいたすべての皆様に感謝申し上げます、報告とさせていただきます。





## IM報告 [G1] 「Enjoy 奉仕で未来へ ～ロータリーの力～」

国際ロータリー第2710地区 2025-26年度 G1ガバナー補佐  
**梶山 公則**  
(長門RC)

2025～26年度 国際ロータリー第2710地区第1グループのIMに、土肥慎二郎ガバナーを始め、下関・長門各RC会員の参加により2026年3月8日に湯本観光ホテル西京にて開催されました。「ロータリアンに期待すること」をテーマに第2840地区高崎RC田中久夫バスターガバナーに講演をしていただき、新入会員が入会したいと思うクラブになっているか、自分が属するロータリークラブに品格はあるか、入会後の新会員のケアなど行って退会防止を行っている、ロータリーが楽しくなるような活動を行っているかなど、年間50名余を入会させた田中講師の手腕の一端を披露していただき、会員一同感銘を受け、今後の会員増強へ向けての行動を考えさせられました。

また、引き続きパネルディスカッションにて、各クラブ独自の奉仕活動を「わがクラブの奉仕はこれだ!」というテーマで発表していただき、養護施設への支援や中学校や高校への職業講話や模擬面接など発表の後、今後の活動の継続や各クラブ間での協力体制など議論が盛り上がりました。

懇親会では、バンド演奏に耳を傾け談笑しながら食事等を楽しみ閉会となりました。

最後になりましたが、第1グループの皆様の登録及び参加、協力に心から感謝し、各クラブの益々の発展をお祈りいたします。





## IM報告 [G12] 「本年度のクラブ スローガン」

国際ロータリー第2710地区 2025-26年度 G12ガバナー補佐  
**上田 秀樹**  
(三次中央RC)

2026年3月14日(土)、三次グランドホテルにおいて、ご来賓に土肥慎二郎ガバナー、前田茂パストガバナー、小根森直子ガバナーノミニー、新宅富士夫次年度ガバナー補佐をお招きして、インターシティ・ミーティングを開催いたしました。

ホストクラブである三次中央RCのメンバーは、当日10時に集合して綿密なりハーサルを行い、13時に開会いたしました。

基調講演は、演歌歌手でひろしま文化大使も務める南一誠氏に「今日を生きる勇気、明日死ぬ覚悟」という演題でご講演をいただきました。明日死ぬかもしれないというほどの大病を乗り越えて思ったことは、今を精一杯生きるということです。ご自身の体験からのご講演で、誰もが心に響いたことでしょう。

その後、各クラブから意見発表をしていただきましたが、今年のテーマはガバナー補佐が考えるということでした。私が公式訪問で各クラブを訪問した際に思ったことは、今年の会長のクラブスローガンに沿った奉仕、または継続している奉仕など聞くことができ、大変参考になりましたので、これらをグループ12の全会員に

知ってもらいたいという思いでした。そこでインターシティ・ミーティングのテーマを『本年度のクラブスローガン』と掲げ、「新しい奉仕活動と継続している奉仕活動」というタイトルで発表していただきました。

発表の後は、土肥ガバナーに総評をいただきましたが、いつものように熱く語っていただき、私も謝辞の時にもらい泣きをしてしまいました。

休憩をはさみ、小根森直子ガバナーノミニーの挨拶、前田茂パストガバナーの乾杯で懇親会が始まりました。アトラクションとして、基調講演をしていただいた南一誠氏の歌とトークで盛り上がりました。

その後、新宅富士夫次年度ガバナー補佐から次年度会長、幹事の紹介をしていただき、最後は「手に手つないで」を大合唱して閉会となりました。

今年度は懇親会の席を各テーブルに5クラブが混ざるように配席しました。一層懇親が深まったのではないのでしょうか。

致し方なくお引き受けしたガバナー補佐でしたが、貴重な経験をさせていただきました。ありがとうございました。感謝！



## 国際ロータリー第2710地区 2028-29年度ガバナー予定者決定のお知らせ

下関北ロータリークラブ さいとう まさあき  
齊藤 昌昭

2026年3月19日、本地区ガバナー指名委員会は、国際ロータリー細則第12条12.030.4により2028-29年度ガバナー候補者として齊藤 昌昭 氏(下関北RC)を推薦し、その旨細則第12条12.030.5により 地区内会員に公表致しました。

その後、2週間の期限までに対抗候補者の推薦がございませんでしたので、細則第12条12.030.10により 齊藤 昌昭 氏 を国際ロータリー第2710地区2028-29年度ガバナー予定者として決定致しましたことをご通知申し上げます。



### 2028-29年度ガバナー候補者 略歴

- [所属クラブ] 下関北ロータリークラブ
- [生年月日] 1955年5月10日
- [職業分類] 介護福祉
- [学歴] 日本福祉大学大学院医療・福祉マネジメント研究科 修士課程卒業
- [職歴] 1980年 (株)齊藤組 入社  
1995年 (株)齊藤組 代表取締役社長  
2000年 (株)セービング 代表取締役社長  
2018年 社会福祉法人夢の会 理事長  
2020年 (株)旨楽庵 代表取締役社長 現在に至る
- [主 公 職] 社会福祉法人山口社会福祉協議会 理事  
山口県介護現場革新会議 委員  
下関市人権施策推進審議会 委員  
下関市高齢者保健福祉推進会議 委員  
一般社団法人全国介護事業者連盟山口県支部 支部長  
一般財団法人国民政治協会山口県支部 会長
- [ロータリー歴] 2004年11月 下関北ロータリークラブ 入会  
2021-22年度 下関北ロータリークラブ 会長  
2024-25年度 RI第2710地区グループ1 IM実行委員長

ベネファクター  
マルチプル・ポールハリス・フェロー +8  
メジャー・ドナー(Level1)  
第10回米山功労者

国際ロータリー第2710地区 — 2025-26年度 新会員紹介 —



森野 勝通  
下関中央RC  
2026年3月27日  
左官・タイル工事業



広政 勝利  
萩RC  
2026年3月12日  
電気事業



鏑 敏之  
防府南RC  
2026年4月2日  
自動車学校



石尾 裕通  
山口RC  
2026年3月18日  
旅行業



金田 佳紀  
柳井RC  
2026年4月7日  
普通銀行



岩佐 光  
柳井西RC  
2026年3月5日  
電気工事



永田 準一  
柳井西RC  
2026年3月5日  
スポーツ施設提供業



西尾 一輝  
広島RC  
2026年3月24日  
旅行事業



國友 眞臣  
広島安佐RC  
2026年3月26日  
鶏卵・鶏肉・食品製造卸売業



島田 克己  
広島北RC  
2026年3月12日  
厨房機器製造



吉野 篤敬  
広島北RC  
2026年3月12日  
建築資材販売



新甲 悟司  
広島北RC  
2026年3月12日  
通信工事



尾山 直大  
広島北RC  
2026年3月4日  
写真業



中内 雅也  
広島北RC  
2026年3月4日  
給排水工事



歌代 剛  
広島東南RC  
2026年4月6日  
冷暖房設備工事業



佛圓 悦子  
広島東南RC  
2026年4月6日  
司法書士



島田 典明  
江田島RC  
2026年3月12日  
スーパーストア



謹んで哀悼の意を表します

故 古田 賢造 殿  
下関東RC  
2026年3月13日 ご逝去  
(享年80歳)  
[職業分類]  
車輛用部品製造販売  
[ロータリー歴]  
職業分類・会員選考委員長

国際ロータリー第2710地区 2025-26年度会員増減・出席率(2026年3月度)

グループ	クラブ名	平均出席率	会員数				
			年度初7/1	当月	内女性		本年度
				入会	退会		
1	長門	85.10	25	24	3	1	2
	下関	72.96	43	44	2	3	2
	下関中央	69.33	38	43	7	5	0
	下関東	70.10	65	66	6	4	3
	下関北	73.88	58	57	4	1	2
	下関西	79.45	33	30	0	0	3
	計	75.14	262	264	22	14	12
2	萩	77.82	42	40	3	2	4
	萩東	86.34	25	23	1	0	2
	美祿	72.45	18	22	1	4	0
	小野田	82.60	31	36	4	8	3
	宇部	94.92	38	36	3	3	5
	宇部東	75.52	9	9	1	0	0
	宇部西	86.23	49	49	6	1	1
計	82.27	212	215	19	18	15	
3	防府	90.99	57	58	3	3	2
	防府北	83.23	22	20	2	1	3
	防府南	86.30	44	44	9	1	1
	山口	78.83	44	49	5	6	1
	山口県央	86.88	24	22	2	2	4
	山口南	93.07	42	39	7	0	3
	計	86.55	233	232	28	13	14
4	光	77.08	52	52	4	2	2
	周南西	82.74	57	56	6	3	4
	徳山	99.23	40	40	2	5	5
	徳山セントラル	79.32	20	22	3	2	0
	徳山東	100.00	42	39	1	0	3
計	87.67	211	209	16	12	14	

グループ	クラブ名	平均出席率	会員数				
			年度初7/1	当月	内女性		本年度
				入会	退会		
5	岩国	75.14	66	64	1	2	4
	岩国中央	85.83	38	38	6	1	1
	岩国西	85.22	64	65	6	2	1
	柳井	88.27	25	23	1	0	2
	柳井西	98.98	26	28	6	2	0
	計	86.69	219	218	20	7	8
6	広島	99.49	123	119	3	14	18
	広島安芸	99.78	33	33	4	2	2
	広島安佐	82.66	13	18	3	7	2
	広島東	96.16	108	116	14	18	10
	広島北	93.78	102	108	0	7	1
	広島陵北	96.55	44	48	4	6	2
	大竹	86.02	24	23	0	2	3
計	93.49	447	465	28	56	38	
7	広島中央	100.00	62	67	5	8	3
	広島廿日市	85.91	24	21	2	1	4
	広島城南	100.00	40	39	3	1	2
	広島南	100.00	86	84	0	4	6
	広島東南	100.00	84	77	12	4	11
	広島西南	99.53	77	77	5	4	4
	広島西	99.49	92	91	7	2	3
計	97.85	465	456	34	24	33	
8	江田島	93.72	17	16	0	1	2
	東広島	81.89	23	23	2	2	2
	東広島21	86.48	21	22	3	2	1
	呉	85.24	71	69	5	0	2
	呉東	75.63	34	35	3	2	1
	呉南	91.30	43	44	1	1	0
	西条	99.71	44	43	1	2	3
広島新世代	85.90	0	21	3	22	1	
計	87.48	253	273	18	32	12	

グループ	クラブ名	平均出席率	会員数				
			年度初7/1	当月	内女性		本年度
				入会	退会		
9	広島空港	81.95	28	27	4	1	2
	因島	94.94	14	14	0	4	4
	三原	88.45	49	49	1	2	2
	尾道	73.05	77	76	2	1	2
	尾道東	86.81	47	48	7	3	2
計	85.04	215	214	14	11	12	
10	府中	87.13	14	15	3	2	1
	福山	94.22	85	80	2	5	10
	福山東	76.06	32	34	2	5	3
	福山丸之内	87.55	22	22	1	0	0
	鞆の浦	70.90	15	15	0	0	0
	福山REC2710*	100.00	7	7	1	0	0
	計	85.98	175	173	9	12	14
11	福山赤坂	84.86	52	52	4	1	1
	福山北	92.37	32	29	2	0	3
	福山南	70.99	56	56	4	3	3
	福山西	85.86	40	38	4	2	4
	松永	95.44	54	55	8	2	1
計	85.90	234	230	22	8	12	
12	吉舎	93.42	9	9	0	0	0
	三次	72.67	40	41	1	2	1
	三次中央	93.28	33	32	5	0	1
	庄原	90.81	26	25	2	0	1
計	89.76	122	120	8	2	4	
第2710地区計	86.51	3048	3069	238	209	188	

\*正式名称「福山ロータリーEクラブ2710」